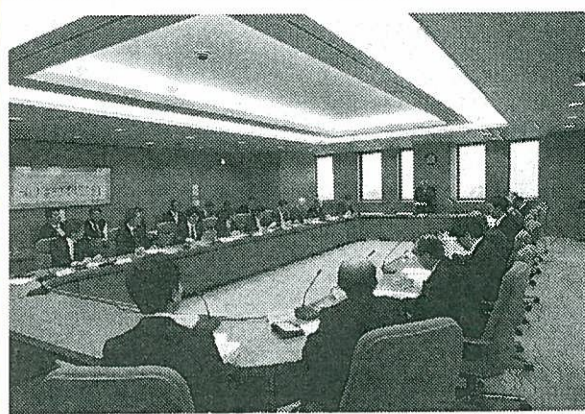


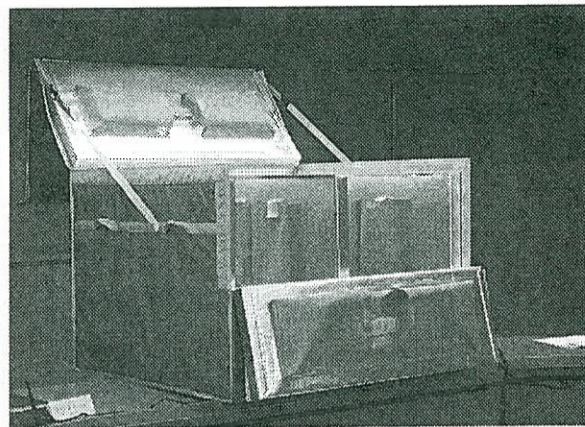
ECW(1年度)は1210万円。予算の内訳は、①同空港での貨物上屋賃借料を補助する航空貨物利用促進事業費補助金613



富士山静岡空港航空貨物利用促進協議会の総会

事業費650万円(400万円)②を同協議会の事業費として供出する。③山梨県、長野県、首都圏の需要拡大活動。国内外でのエアポートセールス

わらわら②を同協議会の事業費として供出する。県の事業計画では、国際貨物では14年度に続き、輸出貨物の需要拡大に取り組



鈴与が製作した保冷容器が紹介された

需要を取り込んでいく。さらに、生鮮貨物の輸出需要開拓に向け、農林水産団体や輸出企業など関係機関と連携する。12年度から開始したトライアル輸送事業については、同空港の航空物流事業の拡大につながる場合は、同協議会の会員以外を対象者に追加する。

14年度累計(14年4月)15年1月時点)の同空港の貨物取扱量は国内・国際合計で544ト。通期見通しは650トと13年度の616トを上回る。累計実績の内訳は、国際262ト(輸出17ト、輸入245ト)とすでに13年度通年の255

航空会社、物流事業者の取り組み、そして何より、県内の経済界の協力が重要」と述べた。また、難波喬司静岡県副知事は貨物取扱量増加に向け、「一つでも多くのモデルを作っていくことが大事。さらなる高みに押し上げていきたい」とした。さらに、出野勉富士山静岡空港会社代表取締役社長は国際線の定期便定着や増便に向けてサポートしていく方針を示す中で、「物流は安定して(航空スペースを)運用できることが大前提。物流の迅速性のためにも、すべてデリーー運航できるようにすれば目標の1200トも達成できるの

用は約20万円。輸送に当たり、チャイナエアラインがバルク室に同容器を搭載するスペース4台分を承認。テスト輸送が実現した。テスト輸送では同容器の内外装ともにダメージはゼロ。保冷容器内の温度は5度を想定していたが、結果はゼロ〜2度だった。空港搬入までに行う検疫検査、爆発物検査を県内各地で行う必要がある、時間とコストがかかることが課題。保冷剤は同空港で貨物上屋を運営するエスエーエス(本社「牧之原市」)が保管するが、県内各地を移動し、航空機搭載時には、新たな保冷剤を利用した。

井真裕日本アジア太平洋リジョナル・セールス・マネージャーは、同社概要と商品ラインアップなどを紹介した。同社の温調コンテナはすべてスウェーデンの自社工場で作成されており、現在合計4000台のコンテナを世界でリースしている。これを15年までに5000台弱まで増加する計画だ。現状日本に在庫の無いRAPE2型も、増産が完了すれば成田に1〜2万台在庫が置かれる見込みだ。

ウァキテックのカタリナ・ウェンシュ・パートナー・ライアンス・アンド・ビジネス・ディベロップメント担当ディレクター「写真⑤」は、非コンテナ式温調管理商品と、温調コンテナ商品について説明した。「コンテナ商品は現在世界で500台ほどだが、1000台まで増やしていく予定」(ウェンシュ氏)とし、「当社との提携契約を締結しているAFR・KLMの拠点全てで商品の返却が可能」「データロガーでコンテナ内外の温度を記録し、顧客にレポートできる」(同)などと説明した。日本の顧客が利用する場合は、ウェブ・ベースか、AFR・KLMカードを通しての発注となる。

エールフランス・KLMカーゴ

羽田で欧州GDP医薬品輸送セミナー

平野ロジなど4社がプレゼン

エールフランス(AFR)・KLMカーゴは19日、東京国際エアカーゴターミナル(TIACCT)で、医薬品の物流に関する基準GDP(Good Distribution Practice) 認証などに関する「欧州GDP医薬品輸送セミナー」を開催した。医薬品メーカーや商社、フォワーダーなど100人以上が参加した。AFR・KLMカーゴが欧州GDP認証や同社医薬品輸送取組み・展望について説明したほか、TIACCTの概要説明・施設見学や、エンバイロテイナー、独 vaiaQ-tec(以下ウァキテック)、米Csafe Global(以下シーセーフ)から各社の温調コンテナについて、平野ロジスティクスから同社の空調車両について、それぞれプレゼンテーションが行われた。

AFR・KLMカーゴのニコラ・セニャ日本・韓国地区ジェネラル・マネージャー「写真⑥」は、「重要なパートナーであるTIACCTの協力で、本日このイベントを開催することができた」とし、「AFR・KLMカーゴが日欧路線で存

在感を示すことができているのは、AFR、KLMや当グループが販売代理しているアリアリア・イタリア航空、エア・カレドニア・インターナショナルの供給量があること、熟達した従業員がいることに加え、平野ロジスティクスのロード

・フィーダー・サービス(RFS)による広範な輸送網があるからだ「羽田の施設や貨物ハンドリングも高品質で充実している」と各パートナー企業への感謝の意を示した。

AFR・KLMカーゴは、自動車、ファッショ、医薬品など多様な特殊輸送貨物の顧客向けポートフォリオを展開しているが、「中でも医薬品輸送量は今年、世界で5%増えることが見込まれる。非常に重要な分

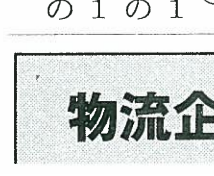
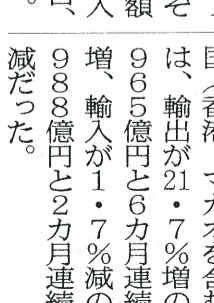
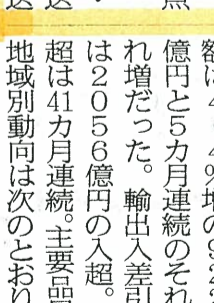
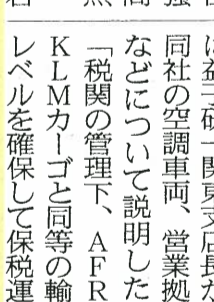
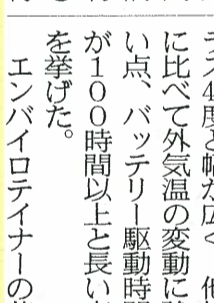
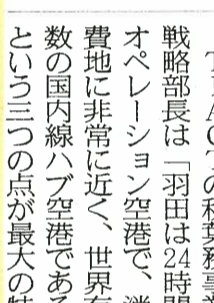
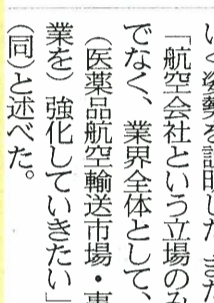
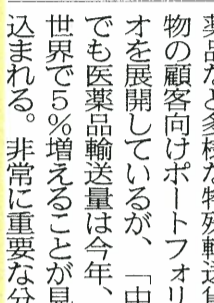
野として取り組みを進めている」「過去数年航空貨物市場は停滞していたが、医薬品の輸送需要は、確実に伸びている産業だ」「長期にわたり同分野での投資を続けてきており、今日当グループが利用可能な温調コンテナのサプライヤーはエンバイロテイナー、ウァキテック、シーセーフの3社に増えた(セニャ氏)などとし、今後も顧客からの信頼性を最重要しながらハブへの投資などを進めていく姿勢を説明した。また、「航空会社という立場のみでなく、業界全体として、(医薬品航空輸送市場・事業を)強化していきたい」と(同)と述べた。

TIACCTの秋葉務事業戦略部長は「羽田は24時間オペレーション空港で、消費地に非常に近く、世界有数の国内線ハブ空港であるという三つの点が最大の特

長」「厳格な温度管理を要する医薬品など貨物のリードタイム短縮という点で圧倒的な優位性がある」「国内で一番セキュリティが厳しい貨物ターミナルと自負している」「空港自身がコンパクトなのでターミナルと駐機場の距離が近い。(利用者が)羽田と大規模空港とを使い分けることが可能だと思っている」などと述べた。

シーセーフのエドウィン・ヴィサーエMEA(欧州・中東・アフリカ)セールス担当ディレクターは、「コールドチェーンの梱包サプライヤーとして、市場の変化に迅速に対応していくかなければならない」とし、コンテナを使用するアクティブからパッシブまで多彩な温調梱包商品を紹介した。同社RKNコンテナの特長としては、対応可能な外気温がマイナス30度プラス40度と幅が広く、他社に比べて外気温の変動に強い点、バッテリー駆動時間が100時間以上と長い点を挙げた。

エンバイロテイナーの若



ネル・ショッピングを促進する重要な要素であり、小売業者はそれに対応していく必要がある。③送料無料は依然として重要だが、返品サービスを重視する消費者が増えている」といったことが明らかになった。同調査はデジタル市場分析会

UPS 利用者 サービスはUPSの送り状に自社ブランドのロゴやクーポン、QRコードなどを印刷できるもの。さらに、返品プロセスを合理化する「UPS返品サービス」、輸送状況を顧客に通知する「クアンタムビュー」といった商品も紹介した。

成田空港貿易概況(2月)

輸出額15%増
輸入額4%増

東京税関がまとめた2月の成田空港貿易概況(速報値)によると、輸出額は前年同月比15.1%増の7165億円と8カ月連続、輸入額は4.4%増の9221億円と5カ月連続のそれぞれ増だった。輸出入差引額は2056億円の入超。入超は41カ月連続。主要品目、地域別動向は次のとおり。

▲輸出

主要増減品目のうち、増加額の1位は自動車部分品(138億円、前年同月比約6.3倍、主要仕向地「米国」、2位は内燃機関(187億円、40.4%増、米国)、3位は電算機類の部分品(131億円、41.8%増、中国)。減少額の1位は半導体等製造装置(361億円、23.6%減、台湾)。

▲輸入

主要増減品目のうち、増加額の1位は航空機類(256億円、約5.1倍、主要仕向地「米国」、2位はIC(921億円、16.9%増、台湾)、3位は原動機(309億円、37.1%増、米国)。減少額の1位は電算機類(707億円、11.7%減、中国)。

▲主要地域別動向

米国は、輸出が31.4%増の1604億円と4カ月連続の増、輸入が15.4%増の2110億円と5カ月連続の増。欧州連合(EU)は輸出が11.4%減の821億円と8カ月ぶりの減、輸入が2.8%減の2137億円と2カ月ぶりの減。アジアは、輸出が18.2%増の4293億円と8カ月連続の増、輸入が3.2%増の3914億円と2カ月ぶりの増。アジアのうち中国(香港、マカオを含む)は、輸出が21.7%増の1965億円と6カ月連続の増、輸入が1.7%減の1988億円と2カ月連続の減だった。